

---

# 教育総合センター

## だより

---

NO. 175

令和 7. 2. 28

---



### 「覚悟して」

いじめ防止生徒指導担当  
課長 杉谷 剛一

教師になるまでを振り返ってみた。

大学4回生の時に専門で勉強していた分野以外の業界に就職してみようと思い、周りではほとんどしていなかった一般企業への就職活動に取り組んだ。資料請求しても1社からも返信はなく、自分から企業説明会に出席することにした。第2次ベビーブーム世代で超就職氷河期だったが、幸いなことに工業薬品を扱う小さな商社から営業職での内定をもらい、「覚悟して」入社を決めた。その会社には5年ぶりの新入社員でひとりだけの入社となった。入社2ヵ月目に社内で若手の先輩方がリストラとなる衝撃的な出来事が起こった。当初の予定から状況が変わり、6ヶ月目から営業に出ることになった。元々、人が好きで営業に向いているのかと思っていたので毎日、商品と自分を売り込んだ。その頃はこの仕事が楽しいと思っていたが、その気持ちと同じくらい「やっぱり教員をしてみたい」という気持ちも生まれたので講師の申し込みをし、「覚悟して」教員（臨時講師）に転職をした。

安定していた正社員から臨時講師になることには不安もあったが、ノルマと戦うこともなくなった。純粋に子どもの成長を実感でき、授業や部活動を通して得た感動を共有できることに喜びを感じた。臨時講師を5年。公立中学校、特別支援学校の高等部、県立総合体育館の指導員など今の自分の基礎となることをたくさん学ぶことができた。そして20代最後の教員採用試験でなんと

か合格し、「覚悟して」尼崎市の教諭となった。初任校と2校目では学校の荒れも目の当たりにした。どうしたら良い授業ができ、どうしたら子どもや保護者と良い関係が作れるのかと試行錯誤の日々。3校目になるといつの間にか保護者よりも年上になり、同じ親としての視点を持って対応できるようになってきた。この時に恩師でもある校長先生に管理職へと導いてもらい、「覚悟して」教頭を3年経験した。ちょうどコロナ禍の3年間。報告書作成に悪戦苦闘、学校行事の中止・縮小、中学校給食の開始など例年通りは通用せず、多くの先生方に助けてもらい毎日があつという間に過ぎた。

今年度からは教育委員会での勤務になった。最近の教育現場には逆風が吹き荒れている。いじめ問題の多様化、不登校児童生徒の増加、教員の働き方改革、部活動の地域移行……など課題が山積している。

その中で私が感じる一番深刻な問題は教員採用試験の倍率が過去最低となるなど危機的な教員不足である。最近、教育実習にくる学生にはすでに就職が決まっている者も少なくない。そして「子どものために」という魔法の言葉で心血を注ぎ子どもに関わってきた教員の熱意への依存にも限界が来ている。将来の我々の同僚となる学生たちにこの仕事を選択してもらえよう、「覚悟して」教員の魅力を伝えていきたい。そして私も尼崎3万人の子どもたちにとっかりと寄り添い続ける教師でありたい。

☆☆「好きこそものの上手なれ」☆☆  
☆☆～リズムジャンプを通じた体力向上を目指して～☆☆

「好きこそものの上手なれ」ということわざがあります。

それは、好きなものに対してならば、興味をもって熱心に取り組め、その中で上達するための工夫を自発的にでき、努力し続けることが苦にならないため、自然に物事の上達が早くなりやすいという意味です。

このことは、教育の現場でも生かされる考えだと思います。教育総合センターで実施している「体力向上研究部会」では、今年度の検証テーマを「リズムジャンプによる意欲の向上が、体力の向上につながるか」とし、研究を進めてきました。

「リズムジャンプ」とは、「リズム感」を高めることで、運動能力やパフォーマンスの向上、傷害予防につながる「スポーツリズムトレーニング」の一種です。音楽の「ビート」

(ドラム等の打楽器が作り出すリズムのこと)に合わせて、「ライン」(無ければ、ジョイントマットを細く切ってつなげたものや、ハードルの柔らかいバーでも代用可能)を様々なジャンプで跳び越えていきます。ジャンプの難易度を変えたり、音楽の速さを調整したりと、発達段階や運動能力に合わせて内容を工夫できる点が特徴です。また、この「スポーツリズムトレーニング」は、プロ野球を始めとするスポーツチームや、高校・大学の部活動でも、ウォーミングアップや練習用プログラムとして取り入れられているという実績もあります。

本研究部会ではこれまで、楽しく運動しながら体力向上につながるようなプログラム作りや、授業でリズムジャンプやリズムを意識した動きを取り入れ、主運動につながる手立てとなるようなプログラム作りを研究してきました。さらに、幼稚園・小学校・中学校と継続的に行うことにより、子どもたちの体力向上を目指してきました。

その中で、歴代の研究部員の先生方の尽力

により、主運動につながる手立て(リズム指導)の方法は、走り幅跳びやバレーボールなど多種目にわたり考案することができました。どれも、リズムの特性を生かしながら、跳び方やタイミングのポイントを意識して、多様な動きについて考えられたものばかりです。また、子どもたち向けに行ったアンケートからも、リズムジャンプを授業に組み込むことで運動に対する意欲は高まっていると、毎年結果として表れています。

一方で、課題もあります。今年度、研究部員のリズムジャンプ・リズム指導の取組を視察した中で、何名かの研究部員や管理職の先生から、「なかなか校内に取組が広まらない。」という声をお聞きしました。その要因としては、スピーカーやラインなどの環境面の整備、授業中の活動時間の確保など、様々なことが考えられます。今後は「校内での広め方」についても、さらに研究を重ねていく必要があると感じております。

しかし、リズムジャンプ、リズム指導を実践しているどの学校園においても、子どもたちは本当に楽しく、生き生きと運動に励んでいました。運動が楽しいと感じると、運動が好きになり、進んで体を動かすことにつながります。その結果、運動能力や体力の向上へと結び付いていくと考えています。

今後は、さらにたくさんの現場の先生方にもリズムジャンプ・リズム指導の効果を実感していただくために、リズムジャンプによる意欲の向上と体力向上との相関性を検証し、授業や保育の中での実践例なども広く周知していきたいと考えております。

「好きこそものの上手なれ」—教育の本質にもつながるその姿を、リズムジャンプで体現できる日を目指して、これからもホップ！スマイル！！リズムジャンプ！！！！

(学び支援課指導主事 遠山 修司)

## ☆☆子どもたちの学びをひろげるための「尼崎市版地域クラブ活動」について☆☆

### 1 学校部活動の現状

本市市立中学校には令和6年5月1日現在、男女合わせて14競技・185の運動部、23種類・66の文化部があり、合計6,606人の生徒たちの、身近なスポーツ・文化芸術活動に触れる場となっています。

学校部活動は、その活動を通じ、競技や活動の魅力を体験できることに加えて、人間関係など様々な学びの場となっており、とりわけ本市は部活動が盛んな地域です。

一方で、少子化が進む中、部員数の減によって競技や活動の魅力を十分に経験できない場合や、廃部に至る場合が増えており、学校間の部活動の種類にも差が出てきている状況にあります。

また、生徒たちの興味・関心も、昨今オリンピック種目にもなったブレイキンなど、多様化しているところです。

### 2 「尼崎市版地域クラブ活動」とは

子どもたちが若年のうちから夢や目標を持って毎日を過ごしていけるためには、一人ひとりの「やりたい」「やってみたい」が尊重され、様々な体験ができる機会が豊富にあり、そしてそれらが場所や経済面などにおいてアクセスしやすく、安定的に続いていくことが重要です。

本市では「地域クラブ活動」の取組を進めることで、学びの機会をひろげ、子どもたちが夢と目標を持って成長していく上での一助としていきたいと考えています。

本市の地域クラブには、現在学校にある競技・活動を中心とした「直営地域クラブ」と、

多様な競技・活動がそれぞれの活動方針の下で行われる「認定地域クラブ」とがあります。

生徒たちは自分に合ったクラブを選ぶことができ、また、複数のクラブに加入することも可能です。もちろん、加入に当たって校区の制限は受けません。

指導は、競技・活動の経験がある地域の方々や学生、希望する教員など、様々な人材が、所定の研修を受けて行います。

地域クラブ活動は学校単位ではないため、自校のアイデンティティの下で大会に出場するといったことはありませんが、より多様な仲間や指導者の下、人間関係の広がりや地域とのつながりが形成されることも期待されます。

### 3 将来に渡って持続可能な取組へ

学校部活動は、地域クラブの充実度合いを踏まえて、令和9年度末までに競技・活動ごとに順次、地域クラブへと移行していくこととしています。

本市では、地域クラブの取組を、民間、地域、行政の協働によって、将来に渡り持続可能なものとなるよう進めていく方針です。

私たち大人が当たり前を経験してきた学校部活動から移行が進んでいくことには寂しさも覚えるところですが、地域クラブでしか実現できない学びもあります。

今の、そして将来の子どもたちの学びの機会をひろげていくために、子どもたちの視点に立って、取組を進めていきます。

(スポーツ推進課)

## 教育情報コーナーのお知らせ

### ☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ね下さい。

(3F 教育情報コーナー)

#### 【新着図書】

- ・『スクールロイヤーが今よく受ける相談事例107』  
有年麻美 著／第一法規
- ・『教育投資の経済学』  
佐野晋平 著／日経BP
- ・『AI時代の教師が知っておきたいIT・情報リテラシー』  
小林祐紀 他著／インプレス
- ・『最新教育動向2025 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120』  
教育の未来を研究する会 著／明治図書
- ・『科学的根拠で子育て 教育経済学の最前線』  
中室牧子 著／ダイヤモンド社
- ・『特別支援がガラッと変わる「見取りのモノサシ」』  
渡辺道治 著／学芸みらい社
- ・『学力喪失 ——認知科学による回復への道筋』  
今井むつみ 著／岩波書店
- ・『歪んだ幸せを求める人たち ケーキの切れない非行少年たち 3』  
宮口幸治 著／新潮社  
(担当 松浦)

### ☆「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

#### 【本の紹介】

■『ChatGPTと共に育む学びと心』2024年8月初版発行 東洋館出版社

著者 鈴木秀樹：東京学芸大学附属小金井小学校教諭

慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学専攻修士課程修了。私立小学校勤務を経て2016年より現職。ICTを活用したインクルーシブ教育の実現、学習者用デジタル教科書、生成AIを活用した授業づくり等が主要な研究テーマ。

安藤 昇：青山学院大学・青山学院中等部非常勤講師

日本大学理工学部物理学科卒業。生成AIを活用した教育分野の第一人者であり、GIGAスクール構想の導入におけるエキスパートとして、多くの学校をアドバイザーとして指導。

安井政樹：札幌国際大学基盤教育部准教授

北海道教育大学教職大学院修了。北海道・札幌市の公立小学校教諭を経て、2022年4月より現職。専門は、道徳教育、ICT活用、インクルーシブ教育などで学校現場とともに研究を進めている。今話題の生成AIについて、単に生成AIの使い方に終始するのではなく、「人の幸せとは何か」「教育はどうあるべきか」という原点を大切に執筆された本である。内容は、ChatGPTの基本的な使い方から授業での活用例、また生成AIの懸念や効果的な活用についての考えなど多様であり、何よりわかりやすく書かれているのが魅力である。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)